

アイルランドの BARB に関する文献

The epidemiology of bovine spongiform encephalopathy in the Republic of Ireland before and after the reinforced feed ban

飼料規制強化前後のアイルランド共和国における B S E の疫学

Eoin Ryan, Guy McGrath, Hazel Sheridan.

Preventive Veterinary Medicine. 2012; 105: 75-84

1996 年 10 月の哺乳動物由来の肉骨粉 (MMBM) の飼料規制の強化以降に生まれた牛群からの “born after the reinforced ban” (BARB) 症例は、2010 年 7 月までに 44 頭検出された。これら BARB の発生要因の検証を行うため、アイルランドの BSE 発生時期を、出生年ごとに、①1991 年以前 (MMBM の反芻動物への飼料規制前)、②1991 年から 1996 年 10 月まで及び③1996 年 10 月以降 (BARB) に生まれた牛群の 3 期に分けて、以下の 3 つの目的で解析を行った。

(a) BARB の主要な疫学的特徴

(b) BSE 発生時期ごとに BSE の地域的な発生要因を推定し、発生時期との関連性の有無を検証

(c) MBM の飼料規制強化が BSE の地理的発生分布に影響を及ぼしたかどうかの検証 (BSE の発生がランダムな地域分布をしているか、地理的なクラスター形成をしているかを検証)

結果は以下の通りである。

- (a) 疫学的分析では、BARB 症例 44 頭 (40 牛群) は主に乳用牛 (29 頭) であった。また詳細な飼料供与履歴が判明した 31 頭の情報から、子牛の時期に濃厚飼料が給与されていたことが共通した特徴だった。
- (b) 発生要因の解析結果では、1991 年以前の出生牛群では、乳用牛飼育農場であること、1991 年－1996 年出生牛群では乳用牛飼育農場であることと周辺に養豚や養鶏農場が多いことが高い発生リスクに関係していることが示された。1996 年 10 月以降の出生牛群 (BARB) の発生は、乳用牛飼育農場であること及び周辺に他の多くの農場があることが発生リスクに関連していると推定された。3 期を通じて乳用牛飼育農場で発生リスクが高い傾向が見られた。
- (c) BSE の地理的発生分布は、3 期ともランダムな分布ではなく特定地域でリスクが高い発生パターンを示した。

また、2000 年 12 月の EU の飼料規制前後の BARB 症例の解析では、乳用牛群対非乳用牛群での発生率を比較した結果、1996 年から 2000 年までの出生群および 2001 年以降の出生群とも乳用牛の発生リスクが高かった。

以上の分析結果から、アイルランドの BARB ケースは、飼料規制前と同様に乳用牛群に有意な発生リスクが認められた。BARB 症例は、孤発性ではなく、他の BSE ケースと同様に飼料を介した曝露による経口感染経路に起因するという仮説が支持された。